



平成28年3月18日

食育の知識のない男子大学生はむし歯増加のリスクが高い 3年の追跡調査で確認

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（歯）予防歯科学分野の森田学教授、同大保健管理センターの岩崎良章准教授らの共同研究グループは、食育の知識のない男子大学生はむし歯が増加しやすいことを縦断研究¹⁾において、世界で初めて突き止めました。本研究成果は2月25日、アメリカの科学雑誌『*Nutrients*』電子版に掲載されました。

現在、わが国では義務教育にて食育を授業として取り入れています。今回、男子大学生において食育の知識とむし歯の関係が明らかになったことから、食育の知識は早期に習得することで、むし歯の予防につながることを期待されます。

<業績>

森田教授、國友宗義院生、保健管理センターの岩崎教授らの共同研究グループは、食育の知識とむし歯のリスクについて、大学生2,184人を対象に3年間追跡調査。追跡できた562人のうち、食育の知識のある男子の36.0%、知識の無い男子の51.9%でむし歯(DMFT)²⁾が増えました。他の因子で調整後、男子大学生において食育の知識のない者は食育の知識のある者よりも2.0倍むし歯が増加しやすいことが明らかになりました(図)。また、女子大学生では、「甘味飲料をよく飲む」と答えた者が、1.9倍むし歯が増加しやすいことがわかりました。

他国における研究では、食に関する教育で甘い食べ物や飲料を控えるようになると言われていました。本研究でも、食育の知識がある者は、間食や夜食を食べない傾向にありました。わが国における食育推進によって、食習慣が改善され、むし歯予防に貢献できる可能性が示唆されました。同グループは、以前の「横断研究」³⁾で、食育とむし歯の経験に関連があることを報告していました。つまり、今回得られた縦断研究の成果は、食育の知識とむし歯リスクとの関係をより強固にするものであると考えられます。

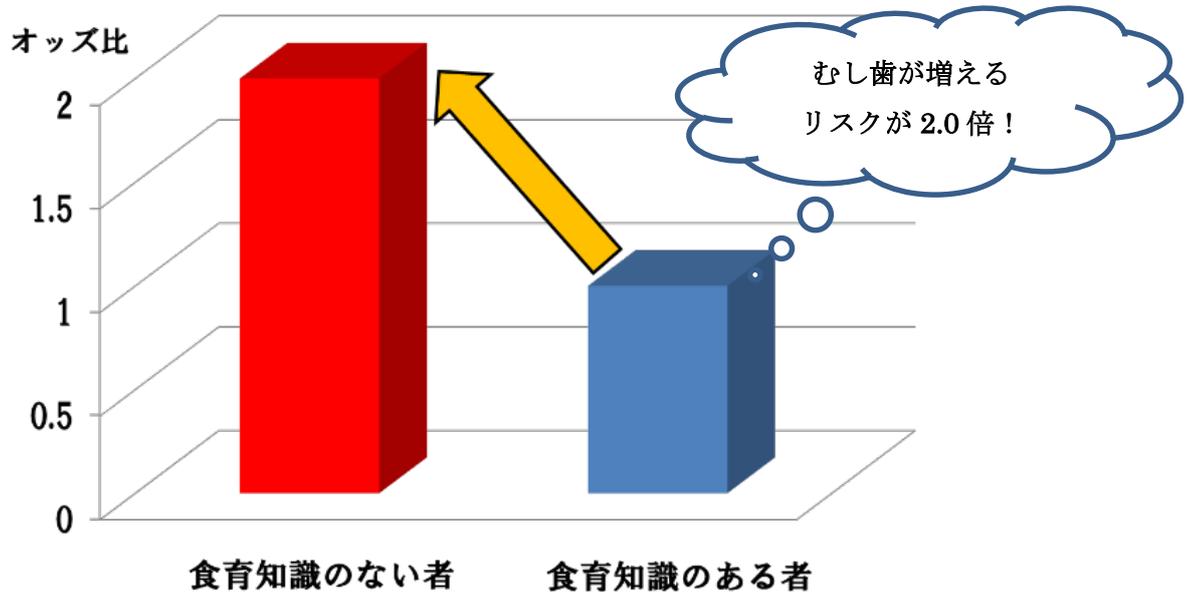


図. 食育知識のない者はある者と比べてむし歯増加のリスクが2.0倍も高い

<見込まれる成果>

日本人の場合、12歳児のむし歯（DMFT）は約1本ですが、20歳くらいまでに約2本のむし歯が新たに増えて、その後も年齢とともに増えます。若いうちから、食育により食生活を改善することは、将来のむし歯や生活習慣病を予防するうえで公衆衛生学的な意義があると考えられます。

<語句説明>

- 1) 縦断研究：縦断研究とは、同一の対象者を一定期間継続的に追跡調査するもの。横断研究で得られる証拠よりも質が高い。
- 2) DMFT：治療していない歯、詰め物・かぶせがしてある歯、およびむし歯が原因で抜いた歯の合計
- 3) 横断研究：横断研究とは、ある一時点における観察を行うもの。

<論文情報>

発表論文：Association between Knowledge about Comprehensive Food Education and Increase in Dental Caries in Japanese University Students: A Prospective Cohort Study.

著者：Kunitomo M, Ekuni D, Mizutani S, Tomofuji T, Irie K, Azuma T, Yamane M, Kataoka K, Taniguchi-Tabata A, Mizuno H, Miyai H, Iwasaki Y, Morita M.

掲載誌：Nutrients. (doi:10.3390/nu8030114)

発表論文はこちらからご確認いただけます

<http://www.mdpi.com/2072-6643/8/3/114/html>



森田 学 教授

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（歯）

予防歯科学分野

教授 森田 学

（電話番号）086-235-6712

（FAX番号）086-235-6714

（URL）http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~preventive_dentistry/top.html